

適1試験 概要・成績書 記入例

〈成績書の枠(Excel)を希望される場合〉

当協会ホームページ<http://www.japr.or.jp> 内の「除草剤試験実施基準」のページにある「試験成績の用紙」より、ダウンロードできます。

記入例 適1 試験方法

試験場所：植調〇〇研究センター（〇〇地域）

**昨年と大きく変えました。
ご確認下さい。**

試験実施圃場：〇〇県〇〇市 No. 〇〇水田

(1) 土壌条件

土質・土性： 沖積・埴壤土 (CL)	腐植含量： 3.3%	減水深： 0.5cm/日	pH： 6.3 (H₂O)
---------------------------	-------------------	---------------------	---------------------------------

(2) 耕種条件

作期・栽培法： 普通期 稚苗機械移植	供試品種： コシヒカリ	移植深度： 3cm
耕起・整地： 3月30日 ロータリー耕	植代日： 4月30日	移植日： 5月4日
移植時の苗の状態 草丈： 16.2cm	葉齢： 2.2	乾物率： 18.4%
対象雑草： 自然発生としてノビエ、タマガヤツリ、コナギ、他一年生広葉 (アゼナ、ミゾハコベ)、マツバイ、ホタルイ。およびミスガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリを各々1区あたり5個埋め込み。なお、アゼナ、ホタルイはSU抵抗性個体を含む。	中干し期間： 7月10日～7月20日	栽植密度： 20株/m²

(3) 調査

雑草調査： 6月21日、6月31日 抜き取り調査	水稻に対する薬害観察調査： 移植後10日目、20日目、30日目
水稻生育調査： 1回目：6月3日 2回目：6月18日	出穂期調査： 7月22日～28日
収穫調査： 9月20日(予定)	

(4) 雑草発生量

試験場所 (圃場No.など)	雑草量	雑草 調査日	ノビエ		一年生 カヤツリグサ		コナギ		他 一年生 広葉		マツ バイ		ホタルイ		ミスガヤツリ		ウリカワ		ヒル ムシロ		セリ	
			本/m ²	g/m ²	本/m ²	g/m ²	本/m ²	g/m ²	g/m ²	g/m ²	本/m ²	g/m ²	本/m ²	g/m ²	本/m ²	g/m ²	本/m ²	g/m ²	本/m ²	g/m ²	本/m ²	g/m ²
〇〇研究センター No.19圃	乾	6月21日	125	91.8	211	7.5	84	21.2	9.1	0.5	98	15.9	21	9.9	7	2.1	6.2	8.8				
〇〇研究センター No.21圃	乾	6月31日	136	122.6	219	7.9	80	23.9	10.3	0.7	96	29.2	36	10.6	8	2.5	6.9	10.1				

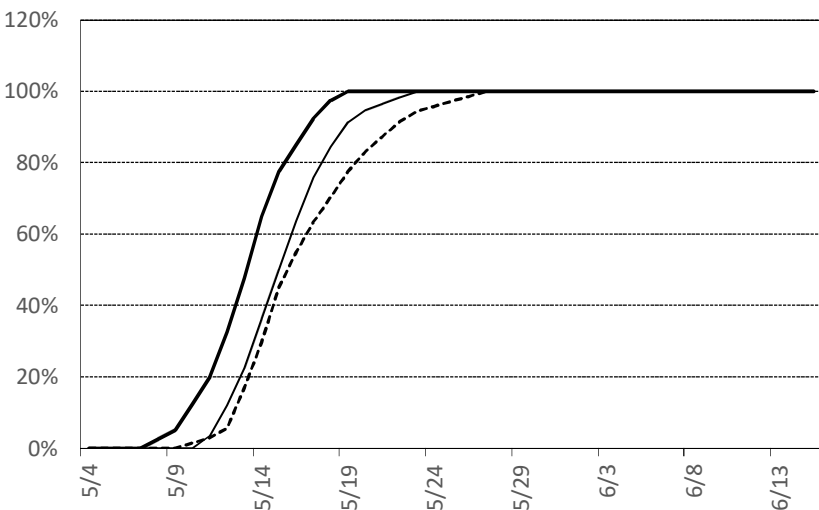
(5) 各雑草の発生活消長

(埋め込みの草種には*を記す)

	ノビエ	一年生 カヤツリグサ	コナギ	他一年生 広葉	ホタルイ	*ミス ガヤツリ	*ウリカワ	*ヒルム シロ	*セリ			
発生始期	5/8	5/上	5/15	5/中	5/10	5/上	5/中	5/中	5/上			
発生盛期	5/中	5/中	5/中	5/下	5/中	5/中	5/下	5/下	5/中			
発生揃期	5/下	5/中	5/下	5/下	5/下	5/中	5/下	5/下	5/中			

(6) 主要雑草の発生活消長

※6月15日の発生本数を100%とした。



主要雑草の発生活消長については、事前にデータを取ることをお願いしてませんでしたので、未掲載でも構いません。来年度はデータを取ることをお願いしたいと考えています。

記入例 適1概要・処理時期と雑草生育状態

試験場所：植調〇〇研究センター（〇〇地域）

処理時期は移植後の日数で表記

自然発生以外のものについては草種名に*印を記入

処理時期	水稻	ハビエ	一年生 カヤツリ グサ	コナギ	アゼナ	マツハイ	ホタルイ	ヘラ オモダカ	*ミス ガヤツリ	*ウリカワ	*ヒルムシ ロ	*セリ		
+0	2.1	前	前	前	前	前	前		前	前	発生前	再生前		
+5	2.9	1	始	始	始	始	1		1cm (始)	前	発生前	再生始		
+7	3.2	2	始	1	1	始	1.5		2cm (1)	始	発生前	再生始		
+10	3.6	2.5	1	1.5	2	盛	2		3cm (1.5)	1	発生前	再生期		
+12	3.8	3	1.5	2.5	2	盛	2.5		5cm (2)	2	発生前	再生期		

気象概況および特記事項

移植当日から20日間は平年を1~2℃上回る気温で推移したため、雑草の生育は例年よりも早かった。移植後6日目に50mmを超える降雨があったものの、各処理区ともオーバーフローはみられなかった。水稻の活着は良好であり、試験期間と通して生育は順調であった。

*ミスガヤツリの生育ステージは草丈cm(葉齢)で記入する

記入例 適1試験 成績概要(中・後期剤の場合)

適1試験

1草種分欄が減りました

症状を書く行幅が広くなりました

※完全除草区の収量の記入 ※無処理区の完全除草区比

区分
中・後期

薬剤名 移植日 調査日	試験場所	土質 土性 減水深 (cm/日)	処理 時期	処理時の 各処理区 の雑草の 最大葉齢	使用量 製品 [10a]	残草量(茎葉重対無処理区比)											水稲に対する影響				判定	所見															
						ノビエ	カヤツ グサ類	コナギ	雑草名 表中に記入	その他 一年生 広葉	マツバ	ホタル	ミス ガヤツ	ウリカ	雑草名 表中に記入	合計	症状	有期の薬害症状・程度										生育量		収量							
																		1回目	2回目	3回目								回復 状況	草丈	茎数	対完全 除草区比	減収の 要因					
XYZ-123 -1kg粒 移植日 H29/5/4 残草調査日 H29/6/16 (移植後43日) ※+40処理は H29/6/26 (移植後53日) 対) 生育調査日 H29/6/25 (移植後52日)	植調 研究所 (0.5cm /日) エリジャン乳 一本剤 スマートFL 一本剤 単用 単用 エリジャン乳→ チュウコキW 1キ口粒 チュウコキW 1キ口粒	沖積 堆填土 普通期 +1→ +20 稲5L +3→ +40 稲9.5L +17 +19 +1→ +20 稲5L +19	前 前 始 始 3 3 2 2 前 前 3 3 2 2	ホタル イ ミズ ガヤ ウリ カ	乾 6/16調査 156.8 6/26調査 194.5 無処理	ノビエ	カヤツ グサ類	コナギ	雑草名 表中に記入	その他 一年生 広葉	マツバ	ホタル	ミス ガヤツ	ウリカ	雑草名 表中に記入	合計	症状	1回目	2回目	3回目	回復 状況	草丈	茎数	対完全 除草区比	減収の 要因	薬害 程度	ノビエ	カヤツ	コナギ	他 広葉	マツ バ	ホタル	ヘラ オ				
						g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	g	←+40処理のみ	+20	+30	+40	cm	本/㎡	※kg/10a		○	3	○	○	○	○	○	3		
						%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	草丈、分けつ抑制	+	+		74.8	454	[* 85%]		○	5cm(2)	2	発生 盛期	増殖期				
																					草丈、分けつ抑制	++	+	遅	73.8	408			○								
																					草丈、分けつ抑制	-	+	+		75.0	454			無							
																					草丈、分けつ抑制	-	+	+		74.6	452			無							
																					草丈、分けつ抑制	-	+	+		75.1	442			微							
															草丈、分けつ抑制	-	+	+		76.0	452			微													
																-	-	-		75.5	454			無													
																-	-	-		74.8	448			無													

実用化可能な使用時期:
+20~+40(ノビエ3Lまで)

・ノビエ3.5L処理において、ノビエとホタルイに対して効果が劣った。

・薬害は1kg/10a(標準量)処理では軽微であり、回復は速かった。

記入例 適1試験成績書（一発処理剤の場合）

平成〇〇年度 水稲関係除草剤適用性試験成績書

試験の種類: 適1

薬剤名・剤型: ABC-123-1kg 粒

試験機関: 公益財団法人日本植物調節剤研究協会研究所

試験地域: 関東・東海地域

担当者: □□□□

試験目的: 一発処理剤としての適用性の検討

試験期間: 平成〇〇年4月~9月

有効成分名 含有率: □□□□□□:〇%, □□□□□□□□□□:〇%, □□□□□□:〇%

ロット番号等: ABC110123

A. 試験方法

試験実施圃場: 茨城県牛久市 植調研究所No. 〇〇水田

(1) 土壌条件

土質・土性: 沖積・埴壌土 (CL)	腐植含量: 3.3%	減水深: 0.5cm/日	pH: 6.3 (H ₂ O)
--------------------	------------	--------------	----------------------------

(2) 気象条件 別表参照

概況: 移植後1週間程度は気温がやや低めに経過し、その後は平年並みで推移した。
ノビエ2葉期処理の翌日に40mmの降雨があったものの、オーバーフロウした試験区は無かった。

NEW

(3) 耕種条件

作期・栽培法: 普通期 稚苗機械移植	供試品種: コシヒカリ		
耕起・整地: 3月30日 ロータリー耕	植代日: 4月30日	移植日: 5月4日	栽植密度: 20株/m ²
移植時の苗の状態 草丈: 16.2cm	葉齢: 2.2	乾物率: 18.4%	移植深度: 3cm
中干し期間: 7月10日~7月20日			
対象雑草: 自然発生としてノビエ、タマガヤツリ、コナギ、他一年生広葉 (アゼナ、ミゾハコベ)、マツバイ、ホタルイ。およびミスガヤツリ、ウリカワ、ヒルムシロ、セリを各々1区あたり5個埋め込み。 なお、アゼナ、ホタルイはSU抵抗性個体を含む。			
その他特記事項: 完全除草区の雑草は+3にサンバード粒剤を処理し、+30に残った雑草を手取りして管理した。			

(4) 試験区の構成

試験規模及び反復: 6m² (2m×3m) 2反復

No.	薬剤名	処理時期	処理量 /10a	処理方法
1	ABC-123-1kg 粒	+0	1kg	湛水処理
2	"	+0	2kg (倍量)	"
3	"	+5	1kg	"
4	"	+5	2kg (倍量)	"
5	"	ノビエ2.0葉期	1kg	"
6	"	ノビエ2.5葉期	1kg	"
7対照	イソハツシヨリW 1キロ粒	+5	1kg	湛水処理
8対照	"	ノビエ2.5葉期	1kg	"

(5) 主要雑草の発生消長

(埋め込みの草種には*を記す)

	ノビエ	一年生 カヤツリグサ	コナギ	他一年生 広葉	ホタルイ	*ミス ガヤツリ	*ウリカワ	*ヒルムシロ	*セリ		
発生始期	5/8	5/上	5/15	5/中	5/10	5/上	5/中	5/中	5/上		
発生盛期	5/中	5/中	5/中	5/下	5/中	5/中	5/下	5/下	5/中		
発生揃期	5/下	5/中	5/下	5/下	5/下	5/中	5/下	5/下	5/中		

(6) 処理日と処理条件

処理時期	処理日	移植後 日数	水深	水稲の 葉齢	雑草の状態 (埋め込みの草種には*を記す)								
					ノビエ	一年 カヤツリ	コナギ	他 広葉	ホタルイ	*ミス ガヤツリ	*ウリカワ	*ヒルムシロ	*セリ
+0	5月4日	+0	5cm	2.2L	前	前	前	前	前	前	前	前	再生前
+5	5月9日	+5	6cm	2.6L	始	前	前	前	始	始	前	前	再生始
ノビエ2.0葉期	5月15日	+11	4cm	3.8L	2L	1L	始	始	2L	始	始	始	再生始
ノビエ2.5葉期	5月17日	+13	5cm	4.0L	2.5L	2L	1L	1L	2.5L	5cm (2L)	始	発生期	再生期

(7) 調査

雑草調査: 6月21日: 抜き取り調査 草種ごとに抜き取り、風乾の後に重量を測定した。
水稲に対する薬害観察調査: 各処理区とも移植後10日目、20日目、30日目に薬害の発現状況や回復状況を観察調査した。
水稲生育調査: 6月3日: 1回目生育調査 各試験区の水稲草丈および莖数について調査を行った。
6月18日: 2回目生育調査 1回目同様に各試験区の水稲草丈および莖数について調査を行った。
出穂期調査: 7月22日~28日 各処理時期ごとに水稲の出穂時期を調査した。
収穫調査: 9月20日 各処理区の水稲精米量を調査した。

B. 試験結果及び考察

(1) 除草効果

調査時期: 6月21日 (+48)

無処理の値:(上段)乾物重 g/m², (下段)本数 /m² 処理区の値:重量の対無処理区比(%)

(埋め込みの草種には*を記す)

No.	ノビエ	一年生 カヤツグサ	コナギ	他一年生 広葉	マツバイ	ホタルイ	*ミズ ガヤツリ	*ウリカワ	*ヒルムシロ	*セリ	合計	除草効果 の大小
無除草	156.8 g 115 本	0.5 80	15.6 98	0.6 -	0.2 -	56.8 93	9.5 13	1.3 10	2.3	4.5	249	
1	0%	0	0	0	0	0	1	t				極大
3	3	0	0	t	0	1	3	1				極大
5	3	0	0	t	0	1	3	1				極大
6	10	0	0	0	0	8	8	10				大
7対照	t	0	0	t	0	t	2	t				極大
8対照	t	0	2	t	0	2	1	t				極大

極大: 0~5%
大: 6~10%
中: 11~20%
小: 21%以上

草種別有効葉令及び生育ステージ

草種名	ノビエ	一年生 カヤツグサ	コナギ	他一年生 広葉	マツバイ	ホタルイ	*ミズ ガヤツリ	*ウリカワ	*ヒルムシロ	*セリ
有効葉齢等	2	○	1	○	○	2	5cm (2L)	始	発生期	再生期

H29より
改訂

所見: +0からノビエ2.0葉期までの対象雑草全般に、高い除草効果を示し約40日間の残効期間が認められた。

- ・草種別有効葉令については下表にまとめた。なお、SU抵抗性雑草(一部のアゼナ、ホタルイ)でも除草効果は高かった。
- ・ノビエ2.5葉期処理ではノビエが枯れ残り、処理後20日頃より再生育も観察され、効果は劣った。

(2) 水稻への影響

No.	生育期の薬害症状・程度				生育量(移植後日数)				穂数 本/m ²	出穂期 月/日	収量			薬害 程度
	薬害症状	程度(移植後日数)			草丈 cm		茎数 本/m ²				精粒重 kg/10a	完全除草 区比%	減収の 要因	
		1回目 (+10)	2回目 (+20)	3回目 (+30)	回復 状況	1回目 (+30)	2回目 (+45)	1回目 (+30)						
完全除草 無処理					56.6 75.5	54.1 74.8	333 444	317	7/25	533	100			
1	草丈抑制, 分けつ抑制	+	++	+	遅	54.1 74.8	328 454	307	7/25	527	99		微	
2	草丈抑制, 分けつ抑制	++	++	+	遅	53.5 73.8	319 448	302	"	518	97		微	
3	草丈抑制	+	-	-		56.3 75.0	341 454	325	"	537	101		微	
4	草丈抑制, 分けつ抑制	+	+	-		56.0 74.6	339 452	309	"	535	100		微	
5	草丈抑制		+	-		56.3 75.1	332 442	318	"	525	98		微	
6			-	-		57.0 76.0	339 452	322	"	540	101		無	
7対照		-	-	-		56.6 75.5	341 454	311	7/25	528	99		無	
8対照		-	-	-		56.1 74.8	336 448	305	"	512	96		無	

所見: +0およびノビエ2.0葉期処理区で草丈の抑制が見られた。+0処理では分けつ抑制も観察され、回復にも時間がかかった。生育調査時にも若干の影響が見られたため収量調査を行ったが、収量への影響は認められなかった。このためとした。

極大: 0~5%
大: 6~10%
中: 11~20%
小: 21%以上

(3) 総合評価

No.	薬剤名	処理時期	処理量 /10a	除草効果の大小	薬害程度	実用化 の判定
1	ABC-123-1kg 粒	+0	1kg	極大	微	○
2	"	"	2kg (倍量)		微	
3	"	+5	1kg	極大	微	○
4	"	"	2kg (倍量)		微	
5	"	ノビエ2.0葉期	1kg	極大	微	○
6	"	ノビエ2.5葉期	1kg	大	無	△

所見: +0からノビエ2.5葉期までの処理で、SU抵抗性のアゼナ、ホタルイを含む対象雑草全般に対し除草効果が高い。また、水稻に対し薬害症状がみられたものの、その程度は軽微であることから、一発処理剤としての適用性はあると判断した。但し、ノビエ2.5葉期処理ではノビエの効果が劣ったため、更なる検討を要する。

C. 適用条件 (設定可能と判断される場合に記載する)

処理時期	使用量 (/10a)	適用草種 (左記処理時期の範囲で適用出来ない場合は「×」を記載)									
		ノビエ	一年生 カヤツグサ	コナギ	他一年生 広葉	マツバイ	ホタルイ	ミズ ガヤツリ	ウリカワ	ヒルムシロ	セリ
+0	ノビエ2葉期 1kg	2	○	1	○	○	2	5cm (2L)	始	発生期	再生期

使用方法: 湛水散布

使用上の注意:

記入例 適1試験成績書（初期剤の場合）

平成〇〇年度 水稲関係除草剤適用性試験成績書

試験の種類: 適1

薬剤名・剤型: AAA-012 フロアブル

試験機関: 公益財団法人日本植物調節剤研究協会研究所

試験地域: 関東・東海地域

担当者: □□□□

試験目的: 初期剤としての適用性の検討

試験期間: 平成〇〇年4月~9月

有効成分名 含有率: □□□□□:〇%, □□□□□□□□□□:〇%, □□□□□□:〇%

ロット番号等: AB11001212

A. 試験方法

試験実施圃場: 茨城県牛久市 植調研究所No. 〇〇水田

(1) 土壌条件

土質・土性: 沖積・埴壌土 (CL)	腐植含量: 3.3%	減水深: 0.5cm/日	pH: 6.3 (H ₂ O)
--------------------	------------	--------------	----------------------------

(2) 気象条件 別表参照

概況: 移植後1週間程度は気温がやや低めに経過し、その後は平年並みで推移した。
ノビエ2葉期処理の翌日に40mmの降雨があったものの、オーバーフロウした試験区は無かった。



(3) 耕種条件

作期・栽培法: 普通期 稚苗機械移植	供試品種: コシヒカリ
耕起・整地: 3月30日 ロータリー耕	植代日: 4月30日
移植時の苗の状態 草丈: 16.2cm	葉齢: 2.2
中干し期間: 7月10日~7月20日	乾物率: 18.4%
対象雑草: 自然発生としてノビエ, タマガヤツリ, コナギ, 他一年生広葉 (アセナ, ミゾハコヘ), マツバイ, ホタルイ, およびミスガヤツリを各々1区あたり5個埋め込み。	移植日: 5月4日
なお、アセナ, ホタルイはSU抵抗性個体を含む。	移植深度: 3cm
その他特記事項: 完全除草区の雑草は+3にサンバード粒剤を処理し、+30に残った雑草を手取りして管理した。	栽植密度: 20株/m ²

(4) 試験区の構成

試験規模及び反復: 6m² (2m×3m) 2反復

No.	薬剤名	処理時期	処理量 /10a	処理方法
1	AAA-012フロアブル→(チュウキザイD1キロ粒)	+0 → (+30)	500mL → (1kg)	湛水処理
2	〃	〃	1000mL (倍量) → (1kg)	〃
3	〃	+5 → (+30)	500mL → (1kg)	〃
4	〃	〃	1000mL (倍量) → (1kg)	〃
5	〃	ノビエ1.0葉期 → (+30)	500mL → (1kg)	〃
6	〃	ノビエ1.5葉期 → (+30)	〃	〃
7対照	シヨキザイAフロアブル→(チュウキザイD1キロ粒)	+0 → (+30)	500mL → (1kg)	湛水処理

(5) 主要雑草の発生消長

(埋め込みの草種には*を記す)

	ノビエ	一年生 ガヤツリ	コナギ	他一年生 広葉	ホタルイ	*ミス ガヤツリ				
発生始期	5/8	5/上	5/15	5/中	5/10	5/上				
発生盛期	5/中	5/中	5/中	5/下	5/中	5/中				
発生揃期	5/下	5/中	5/下	5/下	5/下	5/下				

(6) 処理日と処理条件

処理時期	処理日	移植後 日数	水深	水稲の 葉齢	雑草の状態 (埋め込みの草種には*を記す)					
					ノビエ	一年 ガヤツリ	コナギ	他 広葉	ホタルイ	*ミス ガヤツリ
+0	5/4	+0	5cm	2.2L	前→始	前→前	前→前	前→前	前→始	前→前
+5	5/9	+5	6cm	3.0L	始→始	前→前	前→前	前→前	始→始	前→前
ノビエ1.0L	5/11	+7	4cm	3.4L	1L→前	始→前	1L→前	始→前	始→始	始→始
ノビエ1.5L	5/13	+9	5cm	3.8L	1.5L→前	始→前	1.5L→前	1L→前	1L→1L	始→3cm (1L)
対照)+0	5/4	+0	5cm	2.2L	前→始	前→前	前→前	前→前	前→始	前→始

注)後処理剤について、各区とも処理日は5月29日(+25)、処理時の水深5cm程度、処理時の水稲葉齢は6.5葉

(7) 調査

雑草調査: ①5月29日, ②6月21日 草種ごとに抜き取り、①5月28日は生体重、②6月21日は乾物重を測定。
水稲に対する薬害観察調査: 各処理区とも移植後10日目, 20日目, 30日目に薬害の発現状況や回復状況を観察調査した。
水稲生育調査: 6月3日: 1回目生育調査 各試験区の水稲草丈および莖数について調査を行った。 6月18日: 2回目生育調査 1回目同様に各試験区の水稲草丈および莖数について調査を行った。
出穂期調査: 7月22日~28日 各処理時期ごとに水稲の出穂時期を調査した。
収穫調査: 9月20日 各処理区の水稲精籾重を調査した。

B. 試験結果及び考察

(1) 除草効果

① 調査時期: 6月3日 (+30)

無処理の値:(上段) 生体重 g/m², (下段) 本数 / m² 処理区の値: 重量の対無処理区比 (%)

(埋め込みの草種には*を記す)

No.	ノビエ	一年生 カヤツリグサ	コナギ	他一年生 広葉	マツバイ	ホタルイ	*ミス ガヤツリ			合計	除草効果 の大小
無除草	5.8 g 82 本	0.2 57	1.5 38	0.4 —	0.2 —	2.9 71	2.6 15			13.6 —	
1	2 %	0	t	0	0	t	0			1	極大
3	1	0	0	0	0	t	0			t	極大
5	0	0	0	0	0	2	7			2	極大
6	0	0	0	0	0	3	12			3	極大
7対照	1	0	0	0	0	t	1			1	極大

極大: 0~5%
大: 6~10%
中: 11~20%
小: 21%以上

② 調査時期: 6月21日 (+48)

無処理の値:(上段) 乾比重 g/m², (下段) 本数 / m² 処理区の値: 重量の対無処理区比 (%)

No.	ノビエ	一年生 カヤツリグサ	コナギ	他一年生 広葉	マツバイ	ホタルイ	*ミス ガヤツリ			合計	除草効果 の大小
無除草	156.8 g 115 本	0.5 80	15.6 98	0.6 —	0.2 —	56.8 93	9.5 13			240 —	
1	0 %	0	0	0	0	0	1			t	極大
3	0	0	0	0	0	0	2			t	極大
5	0	0	0	0	0	1	8			1	極大
6	0	0	0	0	0	1	9			1	極大
7対照	0	0	0	0	0	t	2			t	極大

草種別有効葉令及び生育ステージ

草種名	ノビエ	一年生 カヤツリグサ	コナギ	他一年生 広葉	マツバイ	ホタルイ	*ミス ガヤツリ			
有効葉令等	1.5	○	1	○	○	1	前			

所見: 発生始のミスガヤツリを除く対象雑草において、高い効果が確認された。草種別の有効葉令は上記の通り。

・効果持続性はミスガヤツリを除く各草種で、移植後25日まで確認された。

・ミスガヤツリについては発生前処理で発生を抑える効果が高かったものの、発生始処理では効果が劣り、枯死には至らず再伸長が認められた。

(2) 水稻への影響

No.	生育期の薬害症状・程度				生育量(移植後日数)				出穂期 月/日	収量			薬害 程度	
	薬害症状	程度(移植後日数)			草丈 cm		茎数 本/m ²			精粗重 kg/10a	完全除草 区比%	減収の 要因		
		1回目 (+10)	2回目 (+20)	3回目 (+30)	回復 状況	1回目 (+30)	2回目 (+45)	1回目 (+30)	2回目 (+45)	本数 本/m ²				
完全除草 無処理						56.6 75.5	333 444	317	7/25	533	100			
1	草丈抑制	+	-	-		54.1 74.8	328 454	307	7/25	453	85	雑草害		
2	草丈抑制	+	+	-		53.5 74.5	319 448	302	"					微
3	草丈抑制	+	-	-		56.3 75.0	341 454	325	"					微
4	草丈抑制	+	+	-		56.0 74.6	339 452	309	"					微
5		-	-	-		56.3 75.1	332 442	318	"					無
6		-	-	-		57.0 76.0	339 452	322	"					無
7対照		-	-	-		56.6 75.5	341 454	311	7/25					無

所見: 標準薬量区、倍量区共に+0処理区、+5処理区の一部水稻で、草丈抑制の症状が見られたが、その程度は軽微であり、回復して生育調査時には影響が認められなかった。

・観察調査および生育調査において回復が確認されたことから、薬剤処理区での収量調査は省略した。

極大: 0~5%
大: 6~10%
中: 11~20%
小: 21%以上

(3) 総合評価

No.	薬剤名	処理時期	処理量 /10a	除草効果の大小	実用化 の判定
1	AAA-0127ロアブル	+0	500mL	極大	○
2	"	+0	1000mL (倍量)	極大	○
3	"	+5	500mL	極大	○
4	"	+5	1000mL (倍量)	極大	○
5	"	ノビエ1.0葉期	500mL	極大	○
6	"	ノビエ1.5葉期	500m	極大	○

所見: 対象雑草に対する除草効果は、ミスガヤツリを除いて各処理時期とも極大であった。水稻に対する薬害は軽微であり移植直後からノビエ1.5葉期までの初期剤として、実用性有りと判断した。

なお、ミスガヤツリ発生始期での効果については、さらに確認が必要である。

C. 適用条件 (設定可能と判断される場合に記載する)

処理時期	使用量 (/10a)	適用草種 (左記処理時期の範囲で適用出来ない場合は「×」を記載)							
		ノビエ	一年生 カヤツリグサ	コナギ	他一年生 広葉	マツバイ	ホタルイ	ミス ガヤツリ	
+0	ノビエ1.5 葉期 500mL	1.5	○	1	○	○	始	前	

使用方法: 湛水散布

使用上の注意: 体系処理の前処理として用いる

記入例 適1試験成績書(中・後期剤の場合)

平成□□年度 水稲関係除草剤適用性試験成績書

試験の種類: 適1

薬剤名・剤型: DEF-456-1kg 粒

試験機関: 公益財団法人日本植物調節剤研究協会研究所

試験地域: 関東・東海地域

担当者: □□□□

試験目的: 中・後期剤としての適用性の検討

試験期間: 平成□□年4月~9月

有効成分名 含有率: □□□□□□:○%, □□□□□□□□□□:○%, □□□□□□:○%

ロット番号等: DCF5500456

A. 試験方法

試験実施圃場: 茨城県牛久市 植調研究所No. ○○水田

(1) 土壌条件

土質・土性: 沖積・埴壌土 (CL)	腐植含量: 3.3%	減水深: 0.5cm/日	pH: 6.3 (H ₂ O)
--------------------	------------	--------------	----------------------------

(2) 気象条件 別表参照

概況: 移植後1週間程度は気温がやや低めに経過し、その後は平年並みで推移した。
ノビエ2葉期処理の翌日に40mmの降雨があったものの、オーバーフロウした試験区は無かった。



(3) 耕種条件

作期・栽培法: 普通期 稚苗機械移植	供試品種: コシヒカリ
耕起・整地: 3月30日 ロータリー耕	植代日: 4月30日
移植時の苗の状態 草丈: 16.2cm 葉齢: 2.2	乾物率: 18.4%
中干し期間: 7月10日~7月20日	移植日: 5月4日
対象雑草: 自然発生としてノビエ, タマガヤツリ, コナギ, 他一年生広葉 (アゼナ, ミゾハコベ), マツバイ, ホタルイ, およびミスガヤツリ, ウリカワを各々1区あたり5個埋め込み。 なお、アゼナ, ホタルイはSU抵抗性個体を含む。	移植深度: 3cm
その他特記事項: 完全除草区の雑草は+3にサンバード粒剤を処理し、+30に残った雑草を手取りして管理した。	栽植密度: 20株/m ²

(4) 試験区の構成

試験規模及び反復: 6m² (2m×3m) 2反復

No.	薬剤名	処理時期	処理量 /10a	処理方法
1	(シヨキザイA70アフル) → DEF-456-1kg粒	(+0) → +15	(500mL) → 1kg	湛水処理
2	"	(+0) → +15	(500mL) → 2kg (倍量)	"
3	(イッパツシヨリW1キロ粒) → DEF-456-1kg粒	(+5) → +35	(1kg) → 1kg	"
4	"	(+5) → +35	(1kg) → 2kg (倍量)	"
5	DEF-456-1kg粒	ノビエ3.5葉期	1kg	"
6	"	ノビエ4.0葉期	1kg	"
7対照	(シヨキザイA70アフル) → チュウキザイD1キロ粒	(+0) → +15	(500mL) → 1kg	湛水処理
8対照	チュウキザイD1キロ粒	ノビエ4.0葉期	1kg	"

(5) 主要雑草の発生消長

(埋め込みの草種には*を記す)

	ノビエ	一年生 カヤツリ	コナギ	他一年生 広葉	ホタルイ	*ミス ガヤツリ	*ウリカワ				
発生始期	5/8	5/上	5/15	5/中	5/10	5/上	5/中				
発生盛期	5/中	5/中	5/中	5/下	5/中	5/中	5/下				
発生揃期	5/下	5/中	5/下	5/下	5/下	5/下	6/上				

(6) 処理日と処理条件

処理時期	処理日	移植後 日数	水深	水稲の 葉齢	雑草の状態 (埋め込みの草種には*を記す)								
					ノビエ	一年 カヤツリ	コナギ	他 広葉	ホタルイ	*ミス ガヤツリ	*ウリカワ		
+15	5月19日	+15	5cm	5.5L	前	前	前	前	始	始	始		
+35	6月8日	+35	4cm	8.5L	始	前	前	始	始	3cm (1.5L)	1L		
ノビエ3.5葉期	5月23日	+19	4cm	5.4L	3.5L	2L	4L	3L	4L	5cm (2.5L)	2.5L		
ノビエ4.0葉期	5月26日	+22	5cm	5.6L	4L	3L	5L	4L	6cm	8cm (3L)	3L		

(7) 調査

雑草調査: 6月28日: 抜き取り調査 草種ごとに抜き取り、風乾の後に重量を測定した。
水稲に対する薬害観察調査: 各処理区とも移植後20日目, 30日目, 40日目に薬害の発現状況や回復状況を観察調査した。
水稲生育調査: 6月3日: 1回目生育調査 各試験区の水稲草丈および莖数について調査を行った。
6月18日: 2回目生育調査 1回目同様に各試験区の水稲草丈および莖数について調査を行った。
出穂期調査: 7月22日~28日 各処理時期ごとに水稲の出穂時期を調査した。
収穫調査: 9月20日 各処理区の水稲精米量を調査した。

B. 試験結果及び考察

(1) 除草効果

調査時期: 6月28日 (+55)

無処理の値:(上段)乾物重 g/m², (下段)本数 /m² 処理区の値:重量の対無処理区比(%)

(埋め込みの草種には*を記す)

No.	ノビエ	一年生 カタツグサ	コナギ	他一年生 広葉	マツバイ	ホタルイ	*ミス ガヤツリ	*ウリカワ			合計	除草効果 の大小
無除草	166.4 g 118 本	0.6 85	7.3 95	0.7 -	0.2 -	74.3 93	9.5 15				260	
1	0%	0	0	0	0	0	1				t	極大
3	1	0	0	t	0	1	1				1	極大
5	2	0	0	0	0	1	2				2	極大
6	3	0	1	t	0	4	2				3	極大
7対照	t	0	0	t	0	t	2				t	極大
8対照	2	0	2	t	0	2	1				2	極大

極大: 0~5%
大: 6~10%
中: 11~20%
小: 21%以上

草種別有効葉令及び生育ステージ

草種名	ノビエ	一年生 カタツグサ	コナギ	他一年生 広葉	マツバイ	ホタルイ	*ミス ガヤツリ	*ウリカワ		
有効葉令等	4	○	5	○	○	6cm	8cm (3L)	3		

所見: 各処理区において対象雑草全般に高い除草が認められた。

- 各草種での効果完成は対照剤と比べて早く、処理後10日頃には多くの個体で褐変して枯死に至った。
- ノビエ、ホタルイ、ミスガヤツリ、ウリカワでは僅かに枯れ残る個体も見られたが、生育は強く抑制されていた。

(2) 水稻への影響

No.	生育期の薬害症状・程度				生育量(移植後日数)				穂数 本/m ²	出穂期 月/日	収量			薬害 程度
	薬害症状	程度(移植後日数)			草丈 cm		茎数 本/m ²				精粗重 kg/10a	完全除草 区比%	減収の 要因	
		1回目 (+20)	2回目 (+30)	3回目 (+40)	回復 状況	1回目 (+30)	2回目 (+45)	1回目 (+30)						
完全除草 無処理					56.6 75.5	333 444	317	7/25	533	100				
1	葉先枯れ	-	-	-	54.1 74.8	328 454	307	7/25	527	99		無 微 無 無 無 無		
2		+	-	-	53.5 73.8	319 448	302	"	520	98				
3						75.0	454	325	"	532	100			
4						74.6	452	309	"	530	99			
5						75.1	442	318	"	528	99			
6						76.0	452	322	"	535	100			
7対照		-	-	-	56.6 75.5	341 454	311	7/25	535	100		無		
8対照		-	-	-	74.8	448	305	"	540	101		無		

所見: 前処理剤による薬害症状は確認されなかった。

- +20の倍量処理区で、処理後軽微な葉先枯れ症状が見られたが、生育への影響は認められなかった。
- その他の処理区においては、水稻への影響は認められなかった。

極大: 0~5%
大: 6~10%
中: 11~20%
小: 21%以上

(3) 総合評価

No.	薬剤名	処理時期	処理量 /10a	除草効果の大小	薬害程度	実用化 の判定
1	DEF-456-1kg粒	+15	1kg	極大	無	○
2	"	"	2kg(倍量)	極大	無	
3	"	+35	1kg	極大	無	○
4	"	"	2kg(倍量)	極大	無	
5	"	ノビエ3.5葉期	1kg	極大	無	
6	"	ノビエ4.0葉期	1kg	極大	無	

所見: 除草効果が高く、水稻への影響もごく軽微であることから、前処理剤との体系処理を前提とする中・後期剤として、移植後15日から35日(ノビエ4葉期まで)の使用で実用性があると判断した。
・今後は年次変動の確認が必要と考える。

C. 適用条件(設定可能と判断される場合に記載する)

処理時期	使用量 (/10a)	適用草種(左記処理時期の範囲で適用出来ない場合は「×」を記載)										
		ノビエ	一年生 カタツグサ	コナギ	他一年生 広葉	マツバイ	ホタルイ	ミス ガヤツリ	ウリカワ			
早限 +15	晩限 +35	1kg	4	○	5	○	○	6cm	8cm (3L)	3		

使用方法: 温水散布

使用上の注意: 体系処理の後処理として用いる

気象条件

試験場所:

観測地点:

月日	最高気温 ℃	最低気温 ℃	平均気温 ℃	平均水温 ℃	降水量 mm	日照時間 hr	処理等	月日	最高気温 ℃	最低気温 ℃	平均気温 ℃	平均水温 ℃	降水量 mm	日照時間 hr	処理等
5/1								6/5							
5/2								6/6							
5/3								6/7							
5/4								6/8							
5/5								6/9							
5/6								6/10							
5/7															
5/8															
5/9															
5/10															
5/11															
5/12															
5/13															
5/14															
5/15															
5/16															
5/17															
5/18															
5/19								6/23							
5/20								6/24							
5/21								6/25							
5/22								6/26							
5/23								6/27							
5/24								6/28							
5/25								6/29							
5/26								6/30							
5/27								7/1							
5/28								7/2							
5/29								7/3							
5/30								7/4							
5/31								7/5							
6/1								7/6							
6/2								7/7							
6/3															
6/4															

気象表は、概要・成績書の
両方に添付下さい。

今年度からは
平年の気温も
入れて下さい。

